

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「チャンス・チャレンジ・チェンジ」をキーワードとして、生徒全員が就労を通じた社会的自立をし、生き生きと暮らしていける人材を育成する学校をめざす。

「チャンス」= 人との出会いを大事にするとともに、本校の教育活動や生徒の良さを広く発信する。

「チャレンジ」= 自己達成感を高められるように生徒の個別の実態に応じた支援を行いつつ、未経験の課題に対して挑戦する力をつけるよう支援する。

「チェンジ」= 互いの違い・よさを認め合う仲間づくりにより自己肯定感を高め、めざすべき自分・目標を見つけて社会へ巣立つことができるよう支援する。

2 中期的目標

1 生徒本人を中心に据えた「支援と指導・相談」体制の整備と安全で安心な学校づくり

(1) 目標設定～評価のPDCAサイクルを実践し、生徒に関する会議・研修会等を行い、チームで実態把握に努めながら、生徒の成長へつなげる。

(2) 課題の発見・理解や、成功体験を味わう過程を大事にし、自己肯定感を高めながら、課題に対して挑戦する意欲や態度が身につくよう支援方法を工夫する。

(3) 相談しやすい環境設定やその機会を計画的に準備する。また、在校時から関係機関との連携体制を深め、個のニーズに応じた相談体制を構築する。

(4) 安全で安心な学校生活を送ることができる学校づくりを行う。

生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」H30年度:新規72%, R元年度:68% R4年度:83%

同診断「相談できる先生がいる」H30年度:新規71%, R元年度:73% R4年度:88%

2 就労を通じた社会的自立をめざしたキャリア教育の推進と高等支援学校教職員としての資質向上

(1) 令和4年度から実施の新学習指導要領をふまえ、「MURANOキャリアプラン」にもとづき、社会に開かれた教育課程、教科がつながるシラバス推進を行うとともに、新教育課程の編成に取り組む。

(2) シラバスにもとづいた教科の個別の指導計画の内容を担当者間で共有を図るとともに、教科内で教材等の共有を行う。

(3) 生徒がわかる・かわる授業をめざし、授業力の向上に取り組むとともに、高等支援学校教職員としての資質の向上に努める。

特別支援学校教諭免許保有率 H29年度:47%, H30年度:50%, R元年度:53% R4年度:68%

教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」 R元年度:新規87% R4年度:100%

3 共生社会作りへの参画と情報発信

(1) 企業就労をかなえるために、実習先・雇用先の新規開拓・確保を行うとともに、効果的なマッチングを行いながら、就労率・定着率の向上に努める。

(2) 支援教育のセンター的機能の発揮として、共生推進教室設置校を含む学校園に対して、本校の教育実践を広める。

(3) 地域住民・事業主や他校との交流・連携を行いながら、本校生徒への理解が深まるとともにサポーターが増えるよう努める。

(4) 本校の取組みと魅力が鮮明に伝わるように、創意工夫を行いながら積極的な広報を行う。

卒業1年後の職場定着率 H30年度:新規100%, R元年度:92% R4年度:100%

教職員向け「外部への情報提供手段としてホームページを活用できている」 R2年度:新規 R4年度:85%

4 学校の組織力向上

(1) 初任者や経験年数の少ない教職員に対する人材育成とともに、教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場をめざす。

(2) 研修や学校視察に参加して学んだことをいかして実践するとともに、校内で伝達し、組織力の向上に役立てる。

(3) 業務の精選と働き方改革に取り組み、教職員間の協議・研修時間を確保しながら、時間外勤務の縮減、教職員の心身の健康の維持を推進する。

教職員向け「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 R2年度:新規 R4年度:70%

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒本人を中心に据えた「支援と指導・相談」体制の整備と安全で安心な学校づくり	<p>(1) 目標設定～評価のPDCAサイクルを実践し、生徒に関する会議・研修会等を行い、チームで実態把握に努めながら、生徒の成長へつなげる。</p> <p>(2) 課題の発見・理解や、成功体験を味わう過程を大事にし、自己肯定感を高めながら、課題に対して挑戦する意欲や態度が身につくよう支援方法を工夫する。</p> <p>(3) 相談しやすい環境設定やその機会を計画的に準備する。また、在校時から関係機関との連携体制を深め、個のニーズに応じた相談体制を構築する。</p> <p>(4) 安全で安心な学校生活を送ることができる学校づくりを行う。</p>	<p>(1) ア・校内用事故・ヒヤリハット報告書を作成し、状況・対応・原因考察・防止策を共有し、再発防止に努める。着任者にも蓄積内容の共有を図る。</p> <p>(2) ア・各場面において、各担当者が個別の教育支援計画・指導計画を意識して取り組むとともに、目標が生徒に明確になる促しや手立てを工夫する。 イ・職場実習の評価を、担任はもとより、授業担当者においても目標設定・指導にいかす。職場実習の評価と職業に関する教科の評価を含めて、実習先のマッチングの参考とする。</p> <p>(3) ア・SSW・外部福祉人材・関係機関との連携をとるとともに、生徒が気軽に相談できるよう全教職員が努める。 イ・性に関する指導を系統的・継続的に進める。</p> <p>(4) ア・緊急地震速報等を利用した避難訓練を実施。安全を自ら確保できるよう主体的に行動する態度を育成するため、予告なしの訓練に初めて取り組む。「災害発生時緊急連絡カード」の活用が定着するように継続して取り組む。 イ・教育活動における生徒の安全確保、食物アレルギー事故防止等に努める。</p>	<p>< 学校教育自己診断については、生診:生徒向け、保診:保護者向け、教診:教職員向けとして略記。教職員向けで質問項目の担当がない場合は、校内の様子を回答。 ></p> <p>(1) ア・事故・ヒヤリハット報告書を作成・共有する。着任者にも共有する。</p> <p>(2) ア・生診「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」肯定率73%(H30:新規72%,R1:68%) イ・教診「生徒一人一人が興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」85%(H29:68%,H30:74%,R1:80%)</p> <p>(3) ア・生診「相談できる先生がいる」78%(H30:新規71%,R1:73%) イ・教診「性に関する指導は、系統的・計画的に行われている」89%(H29:60%,H30:70%,R1:85%)</p> <p>(4) ア・生診「地震や火災などがおこった場合、どうしたらよいかを学べた」85%(新規) ・緊急連絡カードの活用を継続する。 イ・食物アレルギー事故0件(新規)</p>	
2 キャリア教育を通じた社会的自立をめざした員としての資質の向上と高等支援学校教職	<p>(1) 新学習指導要領をふまえて「MURANOキャリアプラン」にもとづき、社会に開かれた教育課程、教科がつながるシラバスと新教育課程編成。</p> <p>(2) シラバスにもとづいた教科の個別の指導計画の内容を担当者間で共有を図る。</p> <p>(3) 生徒がわかる・かわる授業をめざし、授業力の向上に取り組むとともに、高等支援学校教職員としての資質の向上。</p>	<p>(1) ア・新カリキュラム検討PTから引き継いだ教育課程検討委員会が中心となり、先行実施をめざして新教育課程の編成を進める。</p> <p>(2) ア・シラバスにもとづいた教科の個別の指導計画について、主担当者が内容を検討し、担当者間でそれを共有する。 イ・教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成方法について、見直しと工夫を行い、役立つ方法を取り入れていく。</p> <p>(3) ア・支援学校教職員としての資質の向上を図る。 イ・「MURANOキャリアプラン」にもとづきながら、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行う。</p>	<p>(1) ア・1年先行して令和3年度からの全学年実施をめざして新教育課程の編成を進める。</p> <p>(2) ア・教科の個別の指導計画を担当者間で共有する。 イ・教診「教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成において、現行の体制は役立っている」68%(R1:新規63%)</p> <p>(3) ア・特別支援学校教諭免許保持率58%(H29:47%,H30:50%,R1:53%) イ・教診「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている。」91%(R1:新規87%)</p>	
3 共生社会作りへの参画と情報発信	<p>(1) 企業就労をかなえるために、実習先・雇用先の新規開拓・確保を行うとともに、効果的なマッチングを行いながら、就労率・定着率の向上に努める。</p> <p>(2) 支援教育のセンター的機能の発揮として、共生推進教室設置校を含む学校園に対して、本校の教育実践を広める。</p> <p>(3) 地域住民・事業主や他校との交流・連携を行いながら、本校生徒への理解が深まることともにサポーターが増えるよう努める。</p> <p>(4) 本校の取組と魅力が鮮明に伝わるように、創意工夫を行いながら積極的な広報を行う。</p>	<p>(1) ア・実習・雇用先の開拓・確保。 イ・卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。</p> <p>(2) ア・共生推進教室への相談支援を継続実施。 イ・研究会等の研修・見学の受け入れを行い、教育実践を広めるとともに、授業見学・校内見学もを行い、本校の取組を広める。 ウ・オープンスクールを小学校にも案内をする。</p> <p>(3) ア・生徒の販売学習や活躍できる機会の確保。 ・生徒の製品・サービスにおいて新規の取組みや入れ替えを行う。 ・生徒が社会の一員としての実体験ができるように、天の川カフェを活用する。 イ・生徒登校時の立ち番(通学指導)において担当教職員は、地域住民に率先して日々挨拶を行う。 ウ・大学等を含め他校との交流を実施する。</p> <p>(4) ア・学校Webを外部への情報提供手段としてとらえて活用する。スマートフォンでも見やすい表示を行う。 イ・校区コミュニティの自治会回覧板に随時、広報チラシを掲載してもらって、取組を周知する。</p>	<p>(1) ア・必要な開拓・確保を実施する。 イ・卒業1年後の職場定着率90%以上を維持。(H30:新規100%,R1:92%)</p> <p>(2) ア・共生推進教室の相談支援を実施する。 イ・研究会等の研修・見学を受け入れ、授業見学を併せて行う。 ウ・小学校からもオープンスクールに参加があるように取り組む。(R1:新規10名)</p> <p>(3) ア・製品・サービスにおいて、新規の取組みや入れ替えをする。 ・天の川カフェの利用者数増(含校内・併設校・保護者)3100名以上 (H29:2700名,H30:2990名,R1:3083名) イ・立ち番の教職員は地域で日々挨拶を行う。 ウ・他校との交流を促進する。(R1:2校4日)</p> <p>(4) ア・教診「外部への情報提供手段としてホームページが活用されている」80%(新規) イ・校区コミュニティの自治会回覧板に、広報用チラシを年間4回掲載する。</p>	
4 学校の組織力向上	<p>(1) 初任者や経験年数の少ない教職員に対する人材育成とともに、教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場をめざす。</p> <p>(2) 研修や学校視察に参加して学んだことをいかして実践、校内で伝達し、組織力の向上に役立てる。</p> <p>(3) 業務の精選と働き方改革に取り組み、教職員間の協議・研修時間を確保しながら、時間外勤務の縮減、教職員の心身の健康の維持を推進する。</p>	<p>(1) ア・初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援に積極的にあたる。特に、教職員間の授業見学においては複数回行い、上の育成・支援対象者の授業を必ず含めて行う。</p> <p>(2) ア・近畿特別支援学校知的障害教育研究大会兵庫大会に3名以上参加(R2.8.19) イ・研修や視察の報告を、職員朝礼等の時間を用いて共有を行い、組織力の向上に役立てる。</p> <p>(3) ア・分掌・学年・委員会等からの提案により、業務のスリム化を経営会議で検討し、できることから実施していく。 イ・はよかえろうDAYの実施、在校時間の見える化、会議の17時ルールの継続に加え、更に工夫を行いながら取り組む。</p>	<p>(1) ア・教診「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」60%(新規) ・教診「私は授業見学を複数回行った」60%(新規)</p> <p>(2) ア・教育研究大会に3名以上参加する。 イ・研修や視察の報告・共有を行う。</p> <p>(3) ア・ボトムアップにより、業務のスリム化を実施する。 イ・時間外在校時間の校内平均をR元年度比5%減</p>	